

# いの流水俳壇

間 浩太選

## 「当季雑詠」

ここよりは靴紐しめて青き踏む

片岡 包女

（評）「青き踏む」は中国の古くからの行事から伝わったものといわれます。

旧三月三日ごろのことですが、その時期は中国でも、各地まちまちで一様ではないらしい。

春になって草の萌えるころ。戸外に出てその青々とした草の上で楽しく過ごすことであるが、最近は野遊びと同じで春の光を浴びてピクニックに出掛け解放感を味わっている。行楽的な意味になった。

とにかく、今まで寒さのために屋内にこもっていた人々が、青々とした草の芽を踏み、自然の中にひたって生きていることの喜びを味わうことをいうのである。

この句の作者、包女さんは、ご高齢の方ですが、お元気で俳句・短歌を作り、自動車を運転されて俳句会にも参加される方です。

戸外へ出られて散歩・運動をされるのですが、歩いている途中、道が狭くなったり、石ころ道、また山道のところへ来て、靴紐をしめ直して気持ちも改めてウォーキングをしようとしている作者が

目に浮かびます。いつまでもお元気で。

清明の風に吹かるる杖の主

伊藤 萩甫

（評）「清明」は春分から十五日目、すなわち四月五日ごろに当たります。清浄明潔の略ともいわれ、東南風の吹く春のよい季節という意味である。

このころは、花の季節で、ものみな生き生きするところであります。この句の作者は、京都市に住まわれていまして、最近高知市に移転された方です。

高知市に移転されて最初の作句・投句であり、今後は多くの佳句・秀句をお寄せくださると思います。

高知市へ転居されたときは、ちょうど春のよい季節、花の季節で、ものみな生き生きとしていたところで、そのときに散歩されたときの作句と思われます。杖を用いられた散歩ですが、当事者のことは言わずに、「杖の主」という表現を面白く思いました。

花ぐもり石の風車の軋む音

友草 水月

（評）最近、所々で石の風車を設置している公園などが目に付きます。

大きくて硬そうな石なので回転しように思えないくらいだが、想像したより比較的小さい力（風の）で回転する。

軽く回転するといえ、大きく硬い石材の組立てのため、高低はあるにせよ軋む音のするのは致し方ないものと思われる。

「花ぐもり」の季語の説明は、三、四

月ごろは冬、夏の季節風の変わり目で、局部的な小低気圧を生じ、局所ごとに曇天となりどんよりとして暖かい。

古来「花開く時風雨多し」といつて薄霧のようなものを生じる。

花曇りの語は、元禄の発句にすでに用いられているとのことである。

春の季節現象を美しく言い取った季語として、今日の俳人たちにも多用されている。

ここに住み女の匂いの春の宵

小野川町子

工房の一灯消えず菜種梅雨

岡本とも子

返信の出欠揺れる朧の夜

川村 博子

風に散る花に札所の鐘遠し

大川 節弥

生命線少し伸びたか木の芽和え

竹崎たかひろ

踏青や杖が先行く試歩の土手

井上 郁子

妻病めば家中が病む花の冷え

松尾満津於

茶霧湖の碧に溶け入る花吹雪

岡村 嘉夫

加茂山の天空に泳ぐ鯉のぼり

森岡 照月

ふるさとをはなれてなつかし春の浜筒井

正子

初蝶と千し物たたむ指定席

弘瀬うき子

春泥を跳びこす力とうに失せ

津田 久美

畑打つ土の中より春の来る

間 浩太

次 題 「当季雑詠」五句

締め切り 毎月五日

投句先

社会教育課

いの町3597  
893-2012

JA全農こうち指定 **命** の鍵を握っているのは**シロアリ**です。

白蟻被害を巣から断つ!!

有料広告

もしかして…**シロアリ**!?

シロアリは黒アリとは生態や体型もまったく違います。



なぜ、**バイト工法**は**シロアリ**の駆除には最適なのか?

バイト工法はシロアリの習性を利用し、今までの工法では難しかった「巣」の駆除が可能となりました。シロアリの駆除や予防は家の構造及び建築工法により様々な施工方法があります。弊社では現地調査をして最適な施工法をお勧めいたします。

シロアリを見かけると...

シロアリは社会性昆虫です。見かけると必ず近くに「巣」が存在し女王が次々と産卵をしています。「巣」は大きいもので数百万匹にも及ぶ場合があります。

ホームページ

友清白蟻

クリック!!

検索

株式会社**友清白蟻**

■高知支店 高知市前里70番地3

TEL 088-824-1501 FAX 088-822-0733

